

令和7年度 自己評価報告書



令和8年4月1日

■ 園の概要

当園は、埼玉県越谷市に昭和47年4月に学校法人として開園しました。

長年、産業道路沿いの「ピンク色の幼稚園」として子ども達の目ひく園舎にて幼児教育を行ってきました。平成25年4月、園舎の老朽化や交通量の多い道路事情を考慮し、よりよい教育環境をめざし川柳町へ移転、新築いたしました。

待機児童の増加という現在の子育て事情を鑑み、「少しでも、地域の子育て環境を良くしたい。」との思いから、保育園部門を設置し「認定こども園」として同年開園致しました。

平成27年「子ども子育て新制度」に伴い、幼稚園部門・保育園部門が統一され、新たなスタートを切っております。

■ 本園における園評価のねらい

学校評価を実施することにより、より良い保育や園行事・園運営の充実に生かしていきたいと考えております。職員の自己評価や、外部の皆様に意見を出して頂くためのアンケート調査を行い、前年度よりも内容の濃い園評価を実施していきたいと思っております。

学園理念

【教育目標】

つよい体やさしい心の子どもに育てる。

【保育目標】

家庭的保育かつ集団生活における教育の中で一人一人がいきいきとした生活を送る。

【経営理念】

子ども・保護者・教職員に対するサービス心の経営。

基本方針

総合的な経験や具体的な活動を通して、情緒の安定した安全な生活を送り、心身の健全な発達を図る。子育て付加事業により、保護者の思いをサポートしながら、子育て環境の活性を図り社会的役割を果たす。

教育目標

- 一、心身共に健康で明るい子ども
- 一、がまん強く、頑張りのきく逞しい子ども
- 一、優しく素直で、思いやりのある子ども
- 一、ご挨拶の出来る子ども

保育の計画性

- 学園理念や保育・教育目標
- 5領域 10の姿の理解
- 指導計画の作成
- 環境構成
- 評価・反省

【目標・取り組み】

- 子ども達が主体的となったり、遊びを通して得られたりといった活動が沢山行えるように計画を立てていく。
- 毎日の振り返りを大切にし、反省や発見を保育に生かせるようにする。
- 保育の計画が各クラスに伝わり、実践に活かせるように伝えていく。
- 今年の保育スローガンに向けて、子ども達が自発的に考え行動できる環境・素材を提供していきたい。
- 5領域を意識し、今子ども達に育ってほしいところを明確にしていく。
- クラス担任の計画に基づいて保育のサポートをしていく。環境（配置等）に目を配り、安全に過ごせるようにする。
- 保育室の整理整頓、清潔に保ち、危険な所がないか確認をする。
- 学園の理念、教育目標への理解を深め、本園スローガンを意識しながら、それぞれの年齢の子どもに合わせた対応、保育、言葉掛けを行っていく。

【よく出来たこと】

- 日誌や月案でのねらいや活動内容を、子ども達がやってみたいという気持ちや主体的に、ということを考えて計画していった。
- 子ども達が何に興味を持っているのか（縄跳び、鉄棒、虫、植物など…）を観察し、一緒にやってみたり、補助することで、より楽しめるようにした。
- 子どもが自発的に考え、環境は提供する事ができた。遊ぼうデーを多く取り入れて、園庭、砂場など広いスペースを確保して、のびのびと遊べるようにした。
- 月案を立てるのに前の月のねらいの達成度を振り返りながら、より育って欲しいところを考えて、月のねらいが立てられた。
- 集中して話しが聞けるよう、子ども達の興味が出るような導入をしていった。
- 保育室の整理整頓を心掛け、危険と感ずることがあったら伝えるようにした。
- それぞれの年齢の子ども達の気持ちに気付き、寄りそったり、言葉がけをしたり、見守ったりしながら、安心して過ごせるよう意識して保育にあたる事ができた。

【課題と思ったこと】

- 日々やる事が決まっている部分も多いが、もう少し遊びを取り入れていけるようにしたいと感じた。
- 子ども達の興味や発達に応じ、より遊びの提案や工夫をしていく。
- 子どもが使いたい素材、教材などを“使いたい”と思った時に提供することが難しかった。
- 忙しい時でも気がまわるようにしていかななくてはならない。
- ねらいを考えた時に生活面が多くなってしまったり、保育者の思いが強くなってしまった。言葉のチョイスの難しさを感じた。
- 保育室をもっと広く使ったり、道具を運んだりしてできることを増やしていく。
- 朝の様子や、日中の子ども達の様子を担当や補助の保育士から聞き、午後の保育に続けて繋いでいくことが難しいが大切だと思った。

<p>保育の在り方</p> <p>こどもへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 健康と安全の対応 □ 子どもとの信頼関係 □ 保育者同士の協力・連携 □ 支援を必要とする園児への取り組み
<p>【目標・取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ クラス担任との連携をとり、保育がやりやすいようにする。 □ 「不適切保育」についての知識を学び、丁寧な言葉掛け対応を心掛ける。 □ 子どもとたくさんスキンシップをとり、信頼関係を築いていく。保護者の方と連携を取り合い、1つ1つの成長を喜び共有していく。 □ 個々の発達や理解度を考え、丁寧な関りをしていく。 □ 発達支援の資格を生かし、子どもと向き合っていく。他職員と情報をこまめに取り、共有していく。 □ 子ども、一人ひとりの年齢や発達の様子に応じて、必要な対応を考え担任保育士の補助ができるようにする。 	
<p>【よく出来たこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 担任と話し合い、必要な時にサポートに入っていた。 □ 感情的になりそうな時ほど深呼吸して、言葉を選んで対応できるようにした。また、周りの保育者に対して気付いた時は声をかけ落ち着いてもらえるようにした。 □ 一人ひとりとスキンシップを図り、その子に合った言葉掛けや援助をすることができた。 □ 子どもの話を丁寧に聞いて、対応したりするように心掛けた。 □ 支援が必要な園児に対する対応の仕方等は沢山やりとりをしてきた。実際に早期の療育に繋がったところも良かった。 □ クラスの雰囲気や担任の考えを大切にしながら、丁寧に保育に臨むことができた。 □ 	
<p>【課題と思ったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 担任が自分でやりたいと思うが、現実には、難しいことの場面で待つ必要があることがあった。 □ 周りの保育者を見て対応の仕方学べることが沢山あった。子どもの気持ちやその時の保育者の気持ちを考えた言葉掛けができていたか考えさせられるところがある。 □ 1日の保育の中で、なるべく全員とかかわり、遊びにつなげて良い所を見つけていこうと意識はしていたが、出来ない日もあった。 □ 色々な先生達と、積極的なコミュニケーションをとっていきたい。 □ 訪問施設が多く、施設によって巡回の仕方も違ったので担任の負担は増えたように思う。(電話、記録、聞き取り等) □ 広い視野で遊びを見守り、必要に応じて言葉を掛けたり、間に入ったりしながら対応できたと思うが、難しい場面も多かった。 	

保育者としての 資質と能力

- 専門家としての能力・姿勢・義務
- 組織の一員としての在り方
- 保育の楽しみ・喜び

【目標・取り組み】

- 注視すべき事柄（かみつき、ひっかきなど）を連携して声をかけ合って対応し気づきはすぐに共有できるようにする。
- 保育の知識など、サポートしていく。
- 子どもの小さな成長等にも気づき、喜びや楽しみを他職員にも共有する。
- 保育者としてのスキルアップはもちろんこと、保育者としての姿勢を職員間で見つめ直していきたい。
- 報告・連絡・相談をし、連携をとって子どもの成長を見守っていく。
- 向上心を持って専門性を磨いていく。子どもの良さを見だし、伸ばしていき自身も一緒に喜び楽しむ。
- 子どもが興味を持っている物を見逃さないようにし、言葉掛けだけでなく、手遊びや歌、絵本でこちらにひきつけられようように努力する。
- 支援を必要とする園児の保護者や療育施設との関係を密にし、より良い保育にいていく。

【よく出来たこと】

- トイレで排尿できたり、自分でズボンがはけたりと子どもの成長のちょっとした『できた』を一緒に喜び認めることを常に意識して保有することができた。
- 担任と話し合いながら、成長に合わせた保育が出来るようにしていった。研修で学んだことを伝えることができた。
- 子どもの成長を担任同士で伝え合い共有していった。
- 子どもとの向きあい方で、年中職員で情報を共有し、どのように解決していけば良いのか、どのように向き合っていこうか話し合い、実行できた。
- 子どもの成長を感じた姿や気になること、頑張っていた事などを他の保育者にも伝えるようにした。
- 療育に対する研修等に多く参加し、情報を得て発信をしたり、支援の必要な子の姿を捉え、関わってきた。
- 子ども達が今何に興味を持っているか、常に考え遊びを提供する事ができた。
- 学年の保育者との連携を大事に日々確認し合って考える事ができた。

【課題と思ったこと】

- かみつきやひっかき、おもちゃの取り扱いなどで各クラスだけでなく、合同保育中も目が離せない事も多く、保育士の連携の難しさを感じた。
- 研修等も、知識が深められることを増やしていきたい。
- 子どもの成長を担任同士では共有しやすいが、他の職員にも共有していくことの難しさを感じた。
- おゆうぎ発表会の劇の練習が始まり、各クラスの劇の練習の進み具合をもう少し情報共有しておけば良かったと思う。言葉では聞いていたが、実際、その場で見ないと分からないこともあった。
- 他の保育者の良い所や、参考になる事を取り入れていく。
- 支援が必要な子に個別に関わらないといけない場面が多く、文字や製作を一斉に活動する事が難しく、先生自身が楽しむ余裕がない日もあるのではと思っています。
- マンネリ化している部分があったので、レパトリーを増やしたい。
- 情報を伝え合うことや、活かしていけたらと思うこと資料などを職員会議や職員の連絡ツールで発信していく。

保護者への対応

- 情報の発信と受信
- 守秘義務の遵守
- マナー・心構え
- 要望への対処の仕方

【目標・取り組み】

- 保護者の不安感や困り感等にも耳を傾け、安心して相談ができるような関係を築いていく。
- 一人ひとりに丁寧に関わり、必要としていることや困っていることに気付けるようにする。
- 子どもの様子などを伝えていけるようにする。
- 保護者の要望に丁寧に対応し、子どもの心配なことが気になっていることなど細かいことでも相談にのり、信頼関係を築いていく。
- 言葉づかいや話し方に十分に気をつけ、子どもの様子、成長を分かりやすく伝える。
- 保護者に声をかけて、コミュニケーションをとっていく。
- 保護者への報告、連絡は丁寧に行い、一日の様子や子どもの変化、喜怒哀楽の変化なども細やかに伝えられるようにする。

【よく出来たこと】

- 面談やお迎え時に、子ども達が日々頑張っていること、成長した姿、良さ等を沢山伝えられるようにしていった。
- 一人ひとりに丁寧に関わり、関係を築こうと努力した。
- 伝達や質問された事など、丁寧に対応するようした。
- 信頼関係を築き、お家での様子の情報共有ができた。
- 保護者の話に耳を傾け、コミュニケーションをとっていった。
- 送迎時に話すこともでき、ある程度のコミュニケーションをとることが出来た。
- 物事の前後なども考慮し、今の現状を丁寧に担任や保護者に分かりやすく伝えることができた。

【課題と思ったこと】

- お迎え時にお会いできない保護者の方もいるので、その方々への伝え方。
- 丁寧に対応はしたが、伝わりきれていない部分もあった。何を求められているのか考えて話す。
- 積極的にコミュニケーションがとれるようにしていきたい。
- 保護者から相談を受けた際、頭の中では解決する方法ばかり用意して、その時に寄り添うという配慮が足りなかった時があったので気をつけていきたい。
- その日の出来事を丁寧に保護者へ伝えることで、話が長くなってしまった。
- 話しをする保護者に片寄りが出てしまう。
- 預かり保育の部屋に子どもが増えてくると、子どもの遊びをゆっくり見守れなかったり、ドアが開けばなしになり、廊下に出て行ってしまうことがあり、お迎えに来た保護者とごった返してしまう事があった。

<h2>研修と研究</h2>	<ul style="list-style-type: none"> □ 研修と・研究への意欲・態度 □ 保育士としての専門性に関する研修・研究 □ 今、自分に必要な課題に関する研修・研究
<p>【目標・取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 園内での研修などで、いろいろな考え方に触れ、新しい知識が得られるようにする。 □ 気になる子への対応等、研修に行ったりし学んでいく。 □ 研修後、早く研修録を提出し他の保育者にも共有できるようにする。 □ 何事にもアンテナを張り、スキルアップしていきたい。 □ 保育者としての意識や知識を高めていけるよう努力する。 □ 自ら情報をアップデートする姿勢を持ち、得た情報を自園に反映されるよう考えていく。 □ 興味のあることや自分を高めるために研修に参加し、保育に活かせるようにする。 □ 研修で沢山の事を学び、保育に活かしていく。学んだ事を会議で伝え、共有していく。 	
<p>【よく出来たこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 研修で自分自身が選んだ本の中に「25%ルール」というものがあり、「やろうとした」など「100%できた」でなく、ちょっとした事の中にほめる所を見つけて「ほめる」ことを増やして、見ているんだと子どもに伝えられるように心掛けた。 □ 食事のことにに関する研修に行きたかったので、それに行けて勉強になった。 □ 早い時期に研修を受け、研修録も出し、保育者に共有することが出来た。 □ 研修で学んだ事を、日々の保育で実践し、保育をより良いものにしようという意識で取り組めた。 □ どんな発信をしていけば良いかを日々考えていた。 □ 自分で決めた目標に意欲を持ち続けることができた。研修や研究など学んでいく事が楽しかった。 □ 興味を持った本を購入し、日々の保育で実践できるよう努力した。 □ 会議でどう伝えていくかを自分なりに考えて行えた。 	
<p>【課題と思ったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 担任が主導でもっとその子の為に「～の様にしていきたい」「対応や反応の統一化」話し合ったりして、それを全体に周知し、園全体保育全体で見守ったり対応していく（保育士全員が同じ考え方のもと）ことも必要ではないかと思った。 □ なかなか行きたいと思う研修が見つけれないこと。 □ 学んだ事を日々保育に生かす難しさを感じた。 □ 本屋さんに足を運び、保育に対して新しい情報を入れたり、見直したりしていきたい。 □ 考えたことを実行に移せずに終わってしまったものがあつた。 □ 保育士の仕事が多岐すぎて、少子化の今、なり手不足もあり、保育の魅力や楽しさを発信すること。 □ 研修にあまり参加出来なかった。もっと積極的に参加したい。 □ 色々な研修を受けることや、本読む等して、知識を増やし、保育に活かしていく。 	

以上

全教職員への周知・園内掲示・令和8年HP上への公開を行うものとする。